

2025年度 IT認定資格に関する 調査レポート Candidate Report

世界中の個人と組織における
IT認定資格を目指す動機と
IT認定資格がもたらす影響についての分析

目次

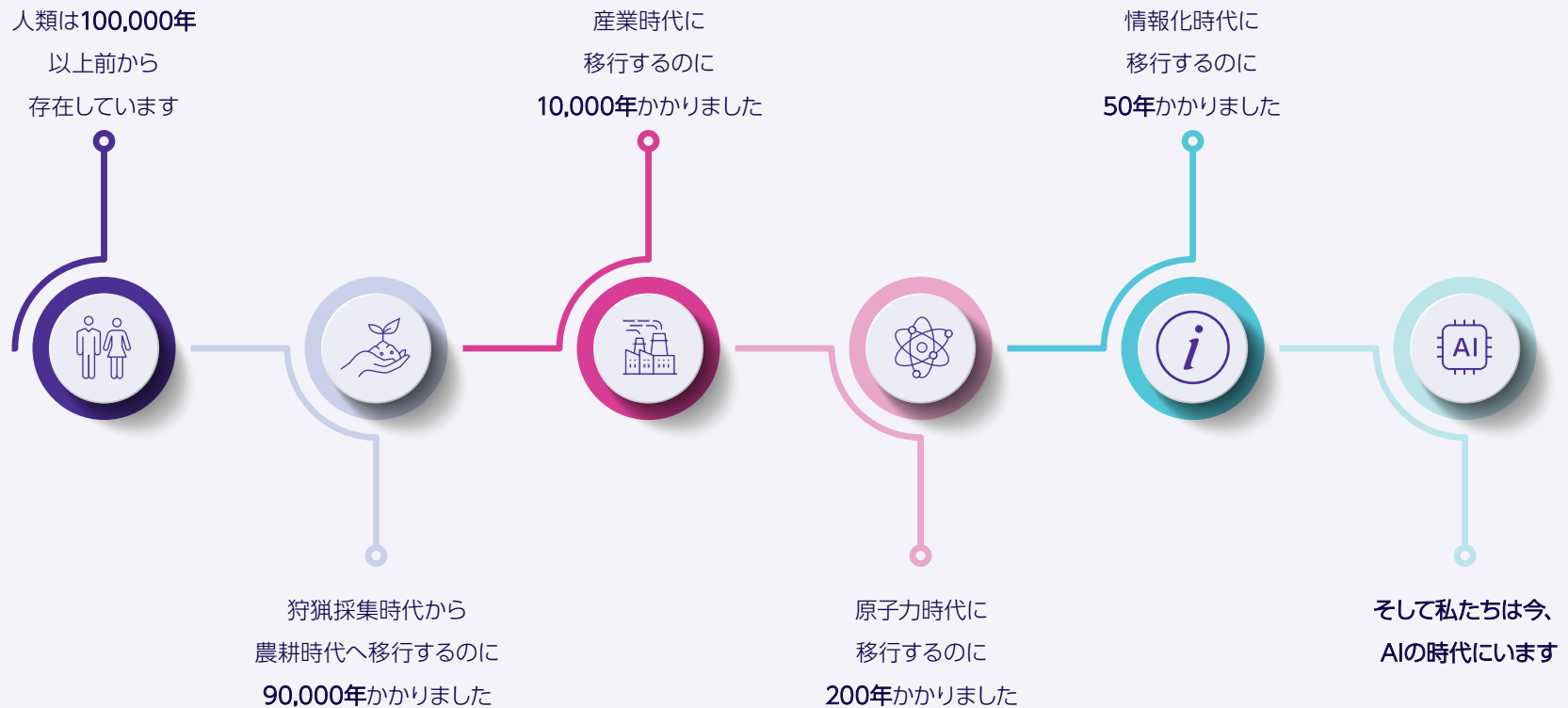
はじめに.....	02
要約.....	04
主要な調査結果	05
結果.....	09
認定資格を取得する理由.....	10
認定資格のROI (投資対効果): 受験者.....	13
認定資格のROI (投資対効果): 雇用主.....	25
職場のトレンド.....	28
継続的なスキル習得.....	34
試験に向けたトレーニングと準備.....	39
将来の展望.....	41
結論.....	43
付録.....	46



はじめに

急速な技術革新が進む現代において、IT認定資格の価値はこれまでになく明確になっています。AI革命の最前線に立つ近年のプロフェッショナルは、時代に取り残されずに最良のキャリア機会を得るために、生涯にわたる継続的な学習姿勢を持つことが不可欠です。このレポートでは、進化し続けるIT認定資格の展望と、キャリアの推進、スキルギャップの解消、最先端技術が持つ可能性の実現におけるIT認定資格の重要な役割について探ります。

AI時代は生涯学習と資格取得の到来を告げる



出典:
2019. Between Precaution and Responsibility: Genome Editing in Agriculture. Dürnberger, C (ed.), Pfeilmeier, S (ed.), Schleissing, S (ed). https://www.ufz.de/index.php?en=20939&pub_id=21579

2021. How people management evolved over time. Reis, D. <https://www.thinkergy.com/blog/how-people-management-evolved-or-over-time>

Pearson VUE 2025 Value of IT Certification Candidate Report

はじめに

人類の進歩は驚異的な速度です。新しい時代や変革期に到達するスピードはますます速くなっています。今や、人類は一生の間に複数の時代を迎えようとしています。人工知能(AI)がイノベーションの速度をさらに加速させ、産業を再構築し、成功に必要なスキルの定義も変えようとしています。



プロフェッショナルのキャリアの成功を支援し、重要なスキルギャップを埋め、AIのような最先端技術が持つ可能性を実現する強力な推進力として、認定資格の存在感が増しています。

要約

シリーズ第9回となる2025年度IT認定資格に関する調査レポートは、ピアソンVUEで試験を受け、IT認定資格を取得した世界約24,000人のプロフェッショナルの経験を分析したものです。

IT認定資格を目指し、準備し、取得した約24,000人のプロフェッショナルが調査に協力し、彼らの視点と経験を共有してくれました。

このグローバルな調査は、アジア太平洋、ヨーロッパ、英国、中東・アフリカ、中南米、および北米で実施され、認定資格取得の動機やメリット、雇用主への影響についての洞察を提供しています。

個人が認定資格を目指す理由、それにより個人や仕事にもたらされるメリット、そして勤務先組織の業績への影響について調査しています。

本レポートでは、前回の調査以降に見られた認定資格の傾向の変化にも焦点を当てています。多様な視点や経験を分析することで、IT認定資格の環境、現状、および今後の動向について包括的な見解を示しています。認定資格が持つ変革力を示すこれらの洞察をぜひご覧ください。



主要な調査結果

1. 具体的なキャリア上のメリットと進歩:

認定資格取得は、昇進や昇給、および急速に変化するテクノロジー環境の中で進化する職責への適応能力など、具体的なキャリア上のメリットにつながっています。



82%

新たな仕事の機会を探り、
追求する自信を得た。



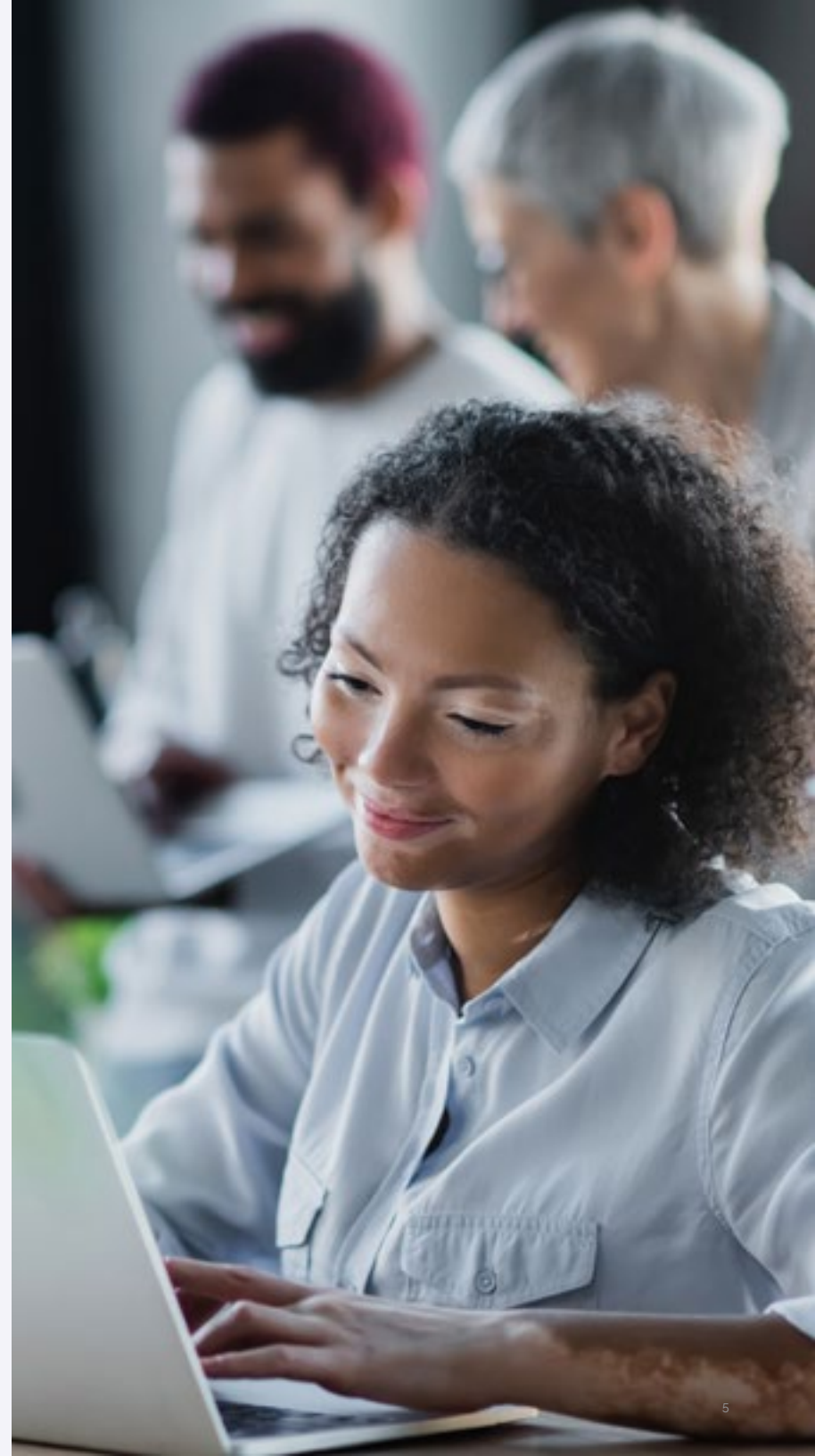
63%

調査時点で昇進しているか、
昇進の見込みがある。



32%

認定資格取得後に昇給。
また、**41%**が昇給を期待。
昇給した人のうち**31%**は昇給の割合が
20%以上であった。



主要な調査結果

2. 認定資格を取得した従業員が組織にもたらすメリット:

認定資格を取得した従業員は、パフォーマンス、イノベーション、および同僚をサポートする能力を向上させ、組織により大きな価値をもたらします。



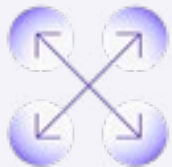
79%

仕事の質が向上したことを実感した。



76%

業務プロセスや成果を革新し、向上させる能力が高まった。



70%

仕事の生産性が向上した。



主要な調査結果

3. 人工知能(AI)や新たなテクノロジーの影響:

AIや新たなテクノロジーによりIT認定資格の環境は再編されつつあり、雇用主とプロフェッショナル双方の認定資格取得の優先順位や投資も影響を受けています。この変化はキャリア開発、組織のメリット、IT学習の将来に大きな変革をもたらしています。

AIはIT分野の認定資格の主要な推進力となっていて、関連する認定資格や投資が大幅に増加しています。

AIや機械学習分野の認定資格の取得を計画している受験者数は、2022年の17%から2024年には35%に増えており、2年間で2倍以上の増加となっています。

またAIは、受験者が今後取得を目指す認定資格として2番目に大きな分野になっています。



69%

雇用主がAIへの投資を開始または増加した。

主要な調査結果

4. 継続的な学習と今後の展望:

AI時代において、キャリアを長く続けるためには、認定資格を通じた継続的な学習が不可欠となっており、多くのプロフェッショナルたちが生涯学習を積極的に取り入れています。



84%

今後12か月以内に別のIT認定資格取得を目指す可能性が「高い」、または「非常に高い」と回答。



保有する認定資格の数は、年齢やキャリア年数が増すほど大きく増加。



調査結果

IT認定資格は、キャリア、組織、テクノロジーのエコシステムに広範な影響を与えています。AIへの投資から昇給に至るまで、認定資格は現代のITプロフェッショナルの歩みや雇用主の戦略を形作っています。調査結果では、技術の進化が加速する中で、生涯学習がいかに重要であることを示しています。



認定資格を取得する理由

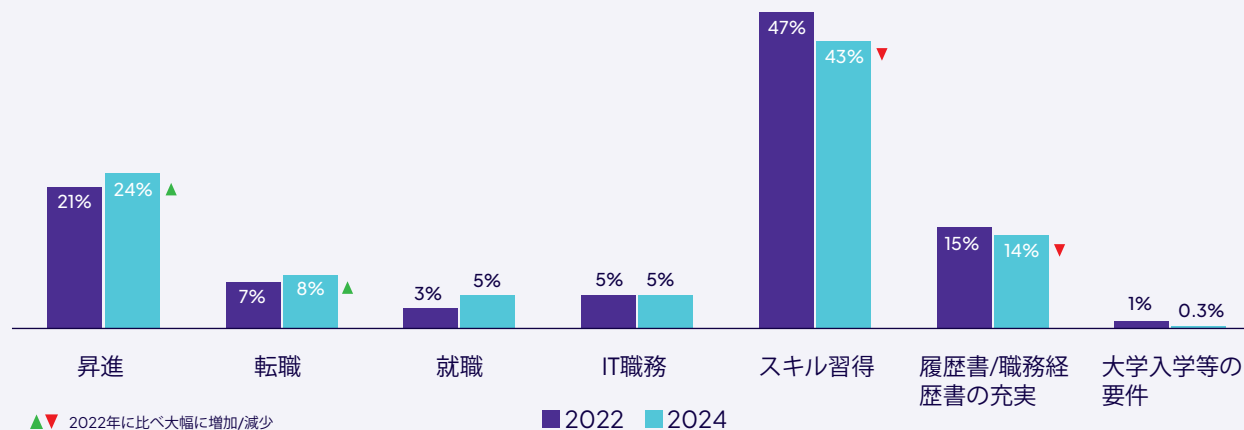
継続的なスキル習得の必要性

絶え間なく進化する環境の中で、テクノロジーは決して立ち止まることはありません。新しいことを学ぶたびにテクノロジーも進化するため、学び続けることが求められます。この傾向自体は新しいものではありませんが、変化のスピードは飛躍的に加速しています。プロフェッショナルは常にキャリアを発展させ、競争力を維持する方法を模索しています。IT認定資格は、こうした目標を達成する強力な手段として登場し、受験者にさまざまな動機を与えています。

- 受験者の大多数は「スキル習得」を資格取得の主な理由に挙げており、回答者の43%がスキル習得を最も重要な動機としている。次に多かった動機は「昇進のため」で、受験者の24%が回答。さらに、受験者の14%はプロフェッショナルとしてのプロフィールや履歴書の充実が最も重要と回答。
- 2022年以降は、スキル習得や履歴書の充実を目的とする受験者は減少し、転職や就職を目指す人が増加。

個人のスキルアップによる経済的メリットのほかに、マクロ経済への影響も非常に大きくなっています。ピアソンの2025年度「[Lost in Transition: Fixing the “Learn to Earn” Skills Gap](#)」(移行期の喪失:「学びから稼ぐ」スキルギャップの解消)レポートによると、米国では、不十分なキャリア移行や学習ギャップによる損失が年間1.1兆ドルにのぼります。

認定資格を取得する一番の理由





認定取得の最大のメリットは「学び」であり、それが自分を守る備えとなります。認定試験のプロセスでは、ラボでの実践や長時間の学習が求められ、これが認定取得の主なメリットです。

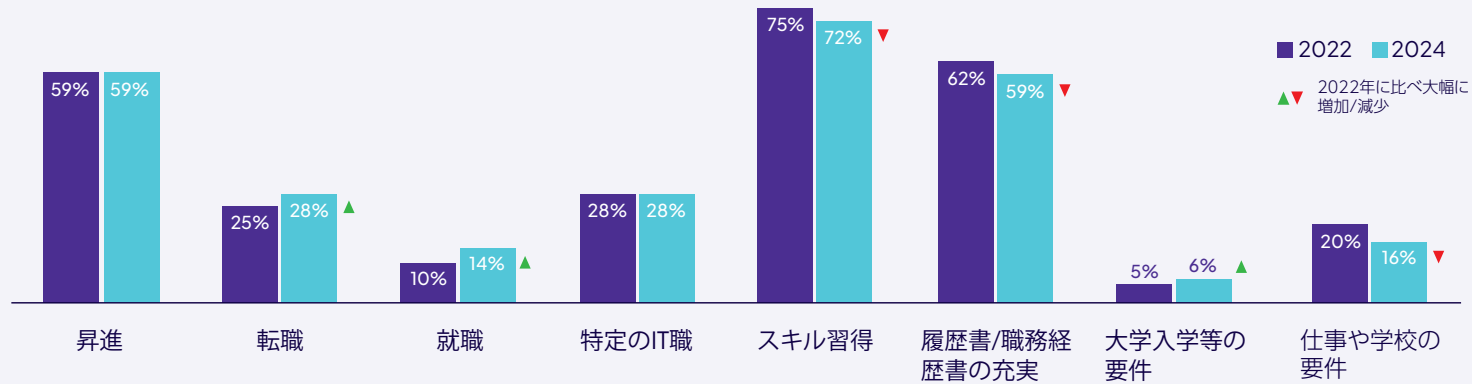


クラウド・プロフェッショナル認定ホルダー(アンゴラ)

認定資格を取得する理由

- 認定資格取得を目指したすべての理由を見ると就職や転職を希望する受験者の数は増加しており、14%は新たな雇用、28%は転職を希望していた。

認定資格取得の動機は何ですか？



- 認定資格取得が就職のためと回答した受験者は中東・アフリカで最も多く、4~5人に1人がこれを動機に選んだ。一方、北米では5人に1人が就職のためと回答。
- アジア太平洋地域では、受験者の21%が就労要件を満たすために認定資格を取得。

認定資格取得の動機は何ですか？ (地域別)

	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
昇進	61%	58%	67%	49%	69%	57%	55%
転職	28%	23%	32%	18%	28%	35%	34%
就職	16%	9%	15%	3%	12%	25%	20%
特定のIT職	37%	22%	32%	14%	26%	40%	29%
スキル習得	73%	70%	76%	72%	73%	73%	67%
履歴書/職務経歴書の充実	60%	61%	65%	31%	68%	65%	62%
大学入学等の要件	7%	3%	10%	0%	7%	9%	6%
仕事や学校の要件	21%	17%	13%	13%	13%	15%	18%

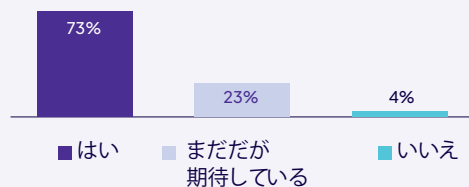
認定資格のROI(投資対効果): 受験者

受験者が得たメリット

IT認定資格の取得は、単なる知識の習得にとどまらず、自分のキャリアへの投資となります。この投資によるリターンは大きく、目に見える金銭的な報酬から目に見えない専門性の成長まで多岐にわたります。

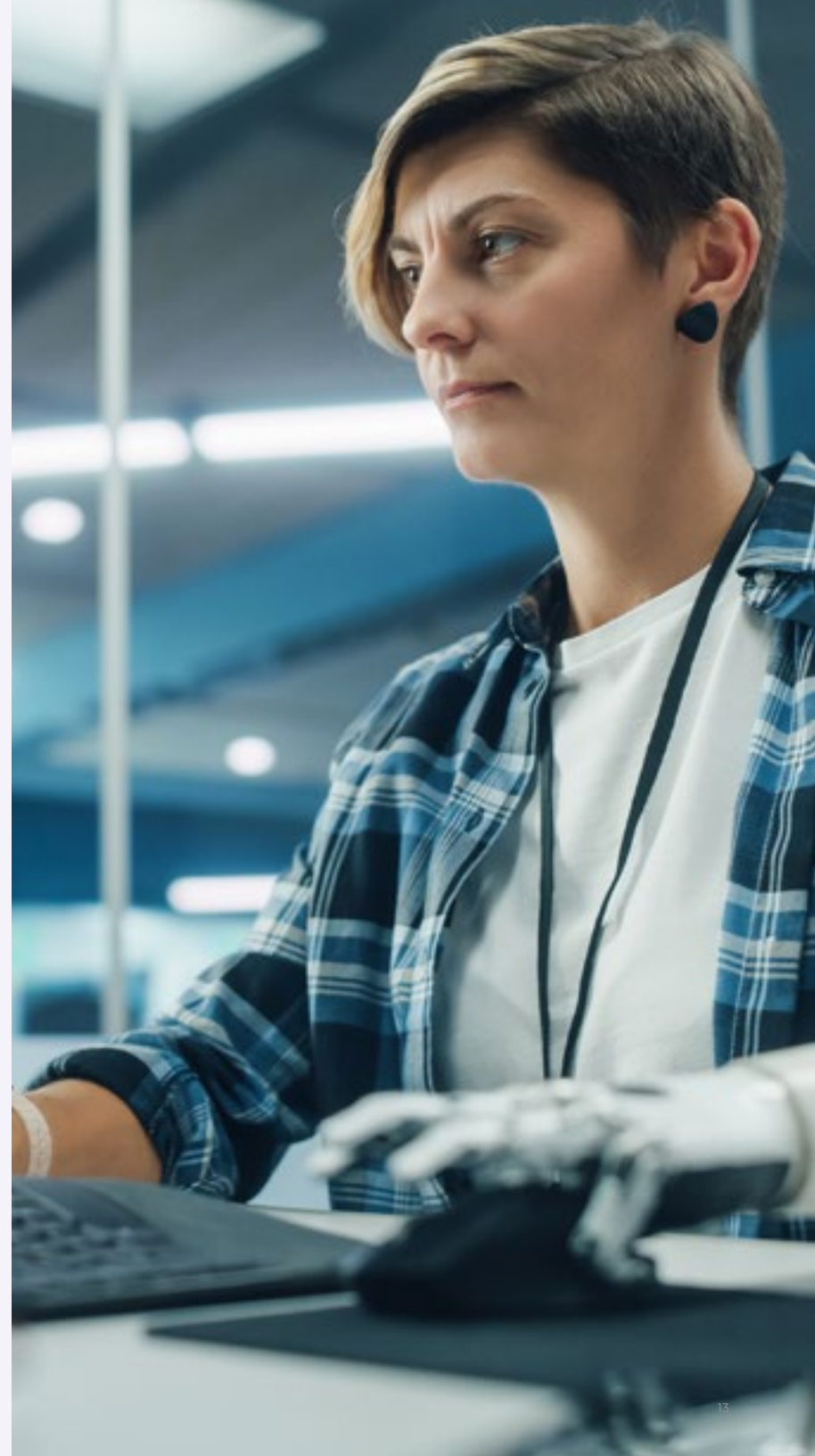
- 受験者の96%が資格取得によって個人的な目標を達成したか、現在も目標達成を望んでいる。

目標は達成できましたか?



私の認定資格は、IT分野で最初の仕事に就くのに役立ちました。新規顧客の獲得に役立つので、クラウド技術の資格をもっと取得するように上司が勧めてくれました。私と会社の双方にとってウィンウィンの状況でした。

認定オペレーター資格取得者(米国)

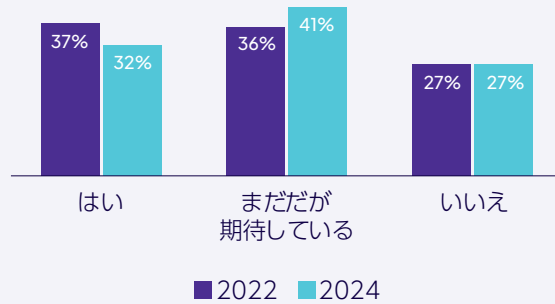


認定資格のROI(投資対効果): 受験者

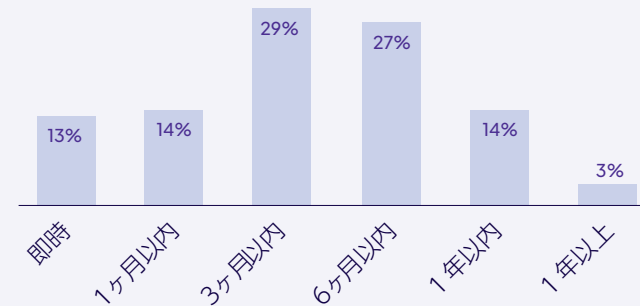
受験者が得たメリット: 昇給

- 回答者の**32%**は、認定資格取得後に**昇給**。
- 昇給した人のうち、56%は資格取得後3ヶ月以内のタイミングで昇給。この割合は、取得後6ヶ月以内の場合は83%に上昇。

資格取得後、昇給しましたか?



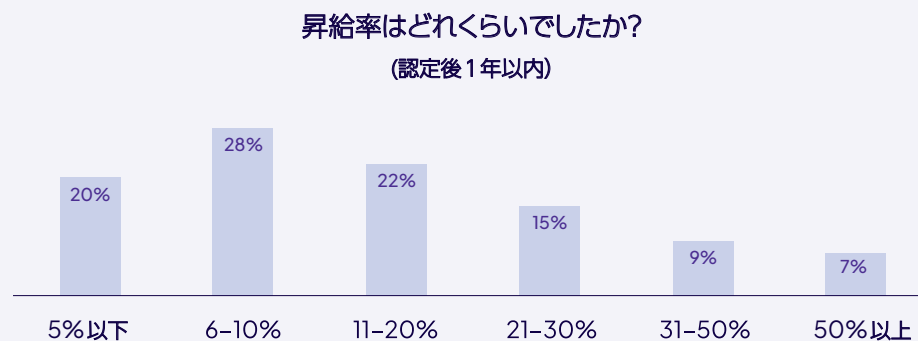
資格取得後、昇給までの期間はどれくらいでしたか?



認定資格のROI(投資対効果): 受験者

受験者が得たメリット: 昇給

- ほとんどの昇給率は6%から20%の間だった。特筆すべきは、31%の受験者は昇給率は20%以上であった。



- 20%以上の昇給と回答したのは、インド、中南米、および中東・アフリカの受験者が最も多かった。

昇給率 (地域別)	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
5%以下	17%	21%	10%	56%	11%	12%	27%
6% - 10%	32%	35%	26%	28%	25%	24%	28%
11% - 20%	23%	24%	24%	10%	26%	21%	22%
21% - 30%	15%	12%	18%	3%	18%	19%	14%
31% - 50%	7%	5%	11%	2%	12%	14%	6%
51%以上	7%	3%	10%	1%	10%	11%	3%

● グローバル平均を大幅に上回る

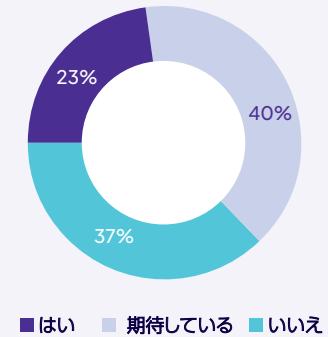
● グローバル平均を大幅に下回る

認定資格のROI(投資対効果): 受験者

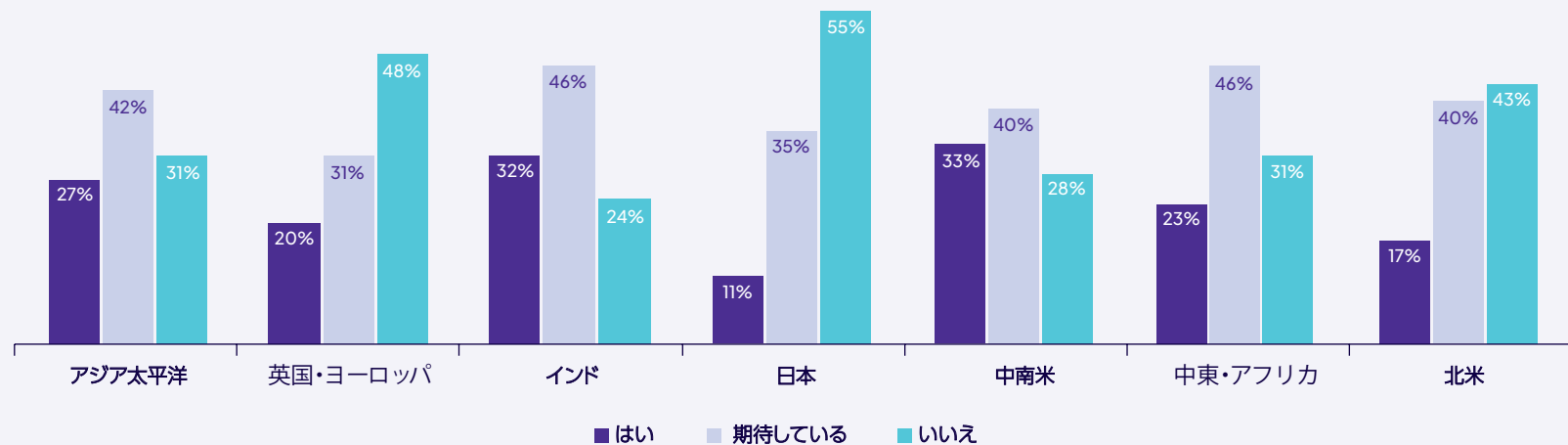
受験者が得たメリット:昇進

- 受験者の23%が認定資格取得によって昇進しており、40%が今後の昇進を期待していた。
- インドや中南米の受験者は、他の地域よりも昇進する割合が高い傾向にある。
- インドでは、調査時点で32%が昇進しており、46%が今後の昇進を期待していた。中南米では、33%が昇進しており、40%が今後の昇進を期待していると回答。
- 昇進していない受験者が最も多いのは、英国・ヨーロッパ、および日本である。

昇進しましたか?



昇進しましたか? (地域別)

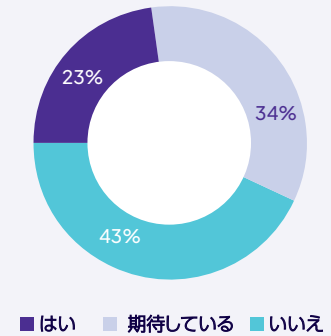


認定資格のROI(投資対効果): 受験者

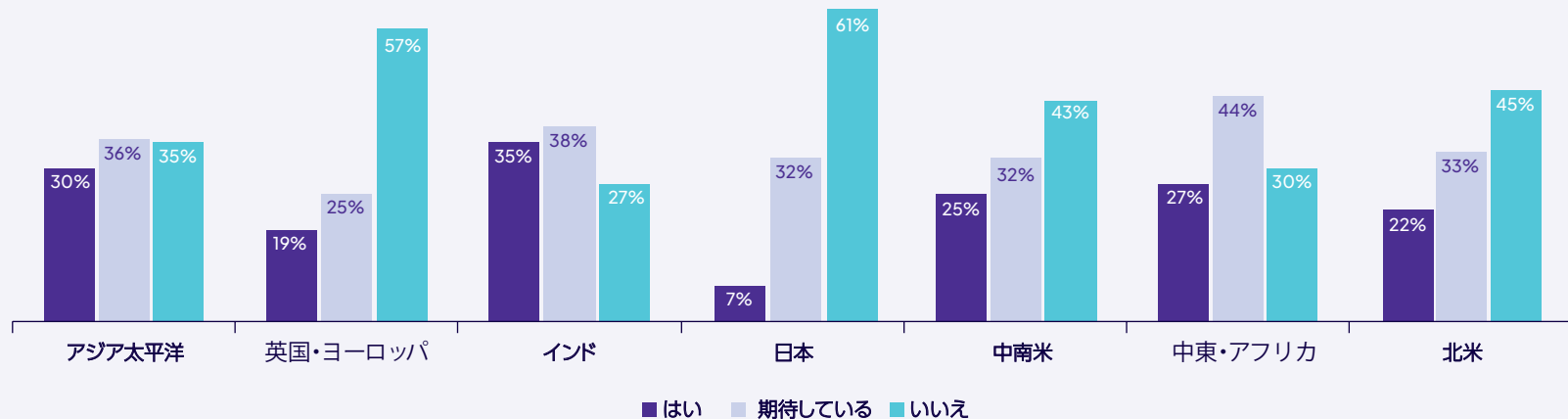
受験者が得たメリット: 同業界での転職

- 認定資格取得後、受験者の23%が同じ業界で新しい仕事を見つけた。さらに34%が今後の新しい仕事のオファーを期待している。
- アジア太平洋とインドの受験者は、同じ業界で新しい仕事を得た割合が特に高かった。

同業界で転職しましたか?



同業界で転職しましたか? (地域別)





Security+認定資格を取得したことで、ついに陸軍が提供するトレーニングに参加できるようになり、陸軍のネットワーク機器に対する管理者権限も得ることができました。



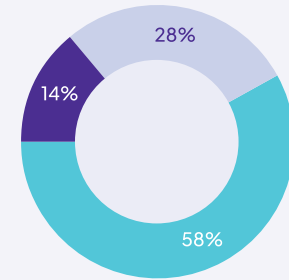
Security認定資格ホルダー (米国)

認定資格のROI(投資対効果): 受験者

受験者が得たメリット: 新しい業界への転職

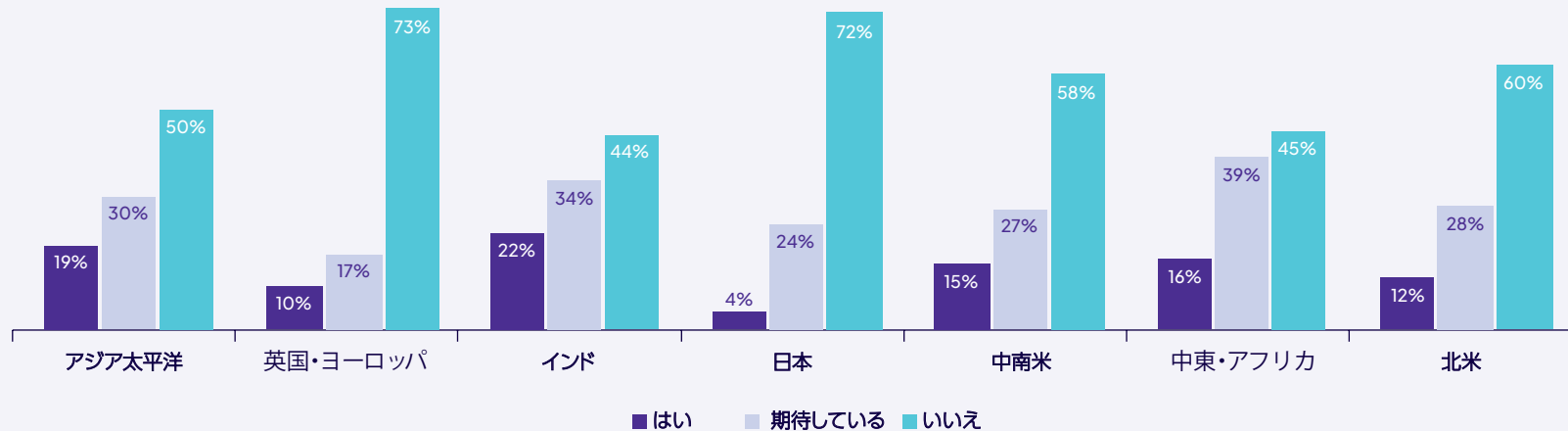
- 新しい業界で仕事を得た受験者の割合は少数だが、これは異業種への転職を希望する受験者自体が全体の8%と少ないため、予想通りである。

新しい業界へ転職しましたか?



■ はい ■ 期待している ■ いいえ

新しい業界へ転職しましたか? (地域別)



■ はい ■ 期待している ■ いいえ



私は薬学からサイバーセキュリティ業界へ転身し、よりやりがいを感じています！



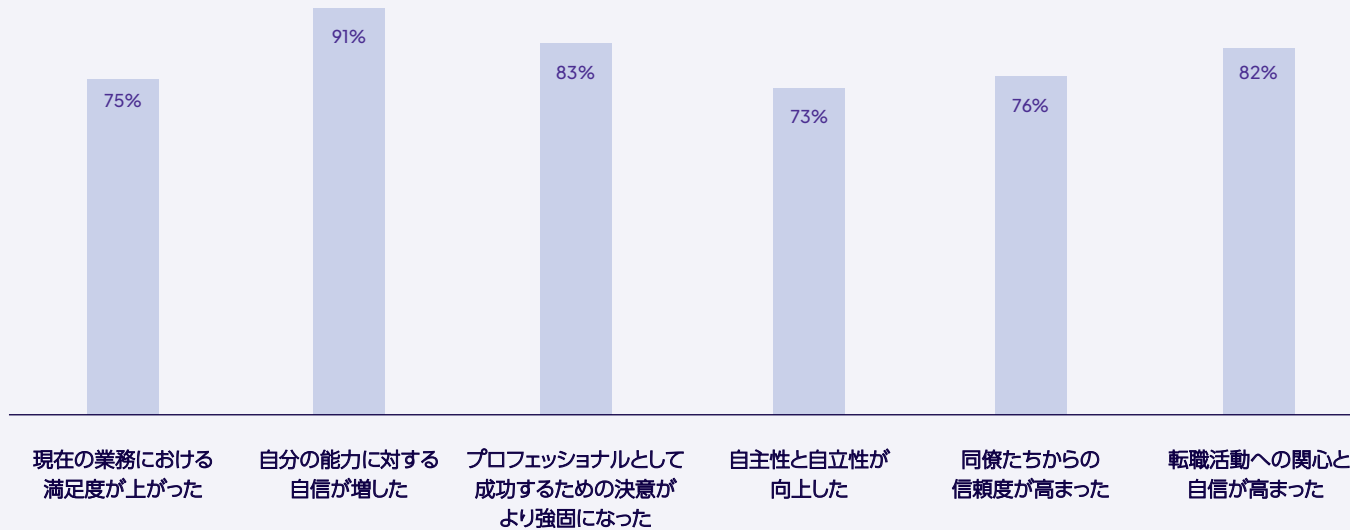
サイバーセキュリティ認定資格ホルダー (サウジアラビア)

認定資格のROI(投資対効果): 受験者

受験者が得たメリット: 内発的(個人的)メリット

- 受験者は、「自分の能力に対する自信が増した」、「プロフェッショナルとして成功するための決意がより強固になった」、および「新しい仕事の機会を探す大きな自信になった」など、認定資格取得から多くの本質的なメリットを得た。

認定資格を取得したことで、以下のメリットがありましたか? (「はい」と回答した割合)





認定資格を取得することは、専門性を証明し、同僚や雇用主からの評価を得るのに役立ちます。さらに、競争の激しい就職市場で他の志望者たちに差をつけることができ、また、個人的な達成感も得られます。



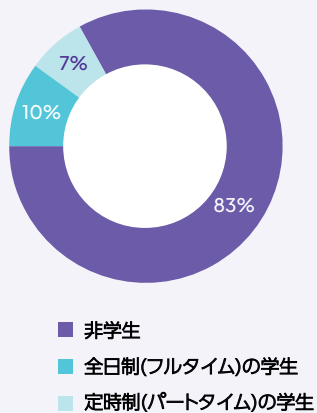
Certified Cloud Practitioner (南アフリカ)

認定資格のROI(投資対効果): 受験者

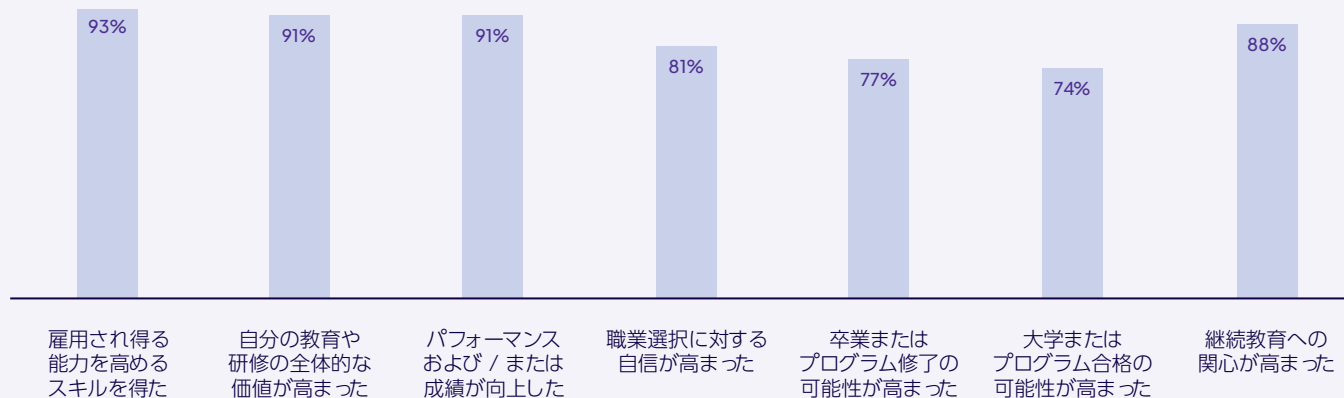
学生が得たメリット

IT分野に進む学生にとって、認定資格は大学等で学んだことを実社会で生かす架け橋となります。こうした認定資格は、従来の教育を補完する価値のあるものになりつつあります。認定資格取得者の17%は、全日制の学生または定時制の学生でした。学生からは、認定資格取得によって就職の可能性が高まったり、教育からより多くの価値を得たり、成績が向上したといった前向きな成果について回答がありました。

就学形態



認定資格を取得したことで以下のメリットがありましたか? (「はい」と回答した割合)





学生のうちにIT認定資格を取得すると、特定のIT分野での知識やスキルが広がる、学業成績が向上する、将来のキャリアの可能性が広がる、といった大きなメリットがあります。



メディアプランニング認定資格ホルダー (ベトナム)

認定資格のROI(投資対効果): 雇用主

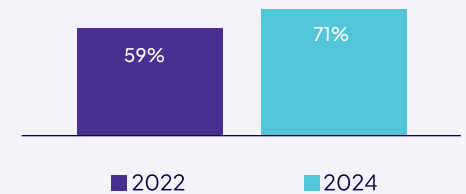
雇用主が得たメリット

認定資格を持つ従業員の価値を認識し、従業員のスキルアップにより多く投資する組織が増えています。受験者の71%が、雇用主によるITスキルトレーニングへの投資が増加したと回答しており、これは2022年の59%から大きく伸びています。雇用主によるトレーニングへの投資の増加はインドで特に顕著ですが、日本でも増加が見られ、2022年から18ポイント上昇しています。

米国では、ピアソンの「Skills Outlook」(スキル展望)レポートの結果からも、このグローバルな傾向が裏付けられています。「[2023 Skills Outlook: Employee View](#)」(2023年度のスキル展望:従業員視点)レポートによると、米国の労働者は、雇用主が主導する育成に強い関心を寄せており、その74%が雇用主によるトレーニングを希望しています。ピアソンの「[2024 Skills Map - United States](#)」(2024年度スキルマップ - 米国)によると、米国市場ではIT分野の職種が引き続き大きく成長しているため、継続的なトレーニングの重要性が特に高まっています。米国の労働者の92%は、職場での学習機会や能力開発機会の維持または拡大を期待しており、4人に3人以上がキャリアを通じて継続的な学習が必要だと考えています。

さらに、雇用主によるトレーニングの増加は、ピアソンの「[Lost in Transition](#)」(移行期の喪失)レポートでスキルギャップ解消の鍵として提唱されている「学習文化」への前向きな流れを示しています。この「学習文化」とは、組織が従業員の能力開発に積極的に投資し、学習を企業の使命や価値観に組み込むことを意味します。

勤務先組織は、2022年と比べて
2024年のトレーニングや認定資格への
投資を増やしましたか?
(「はい」と回答した割合)



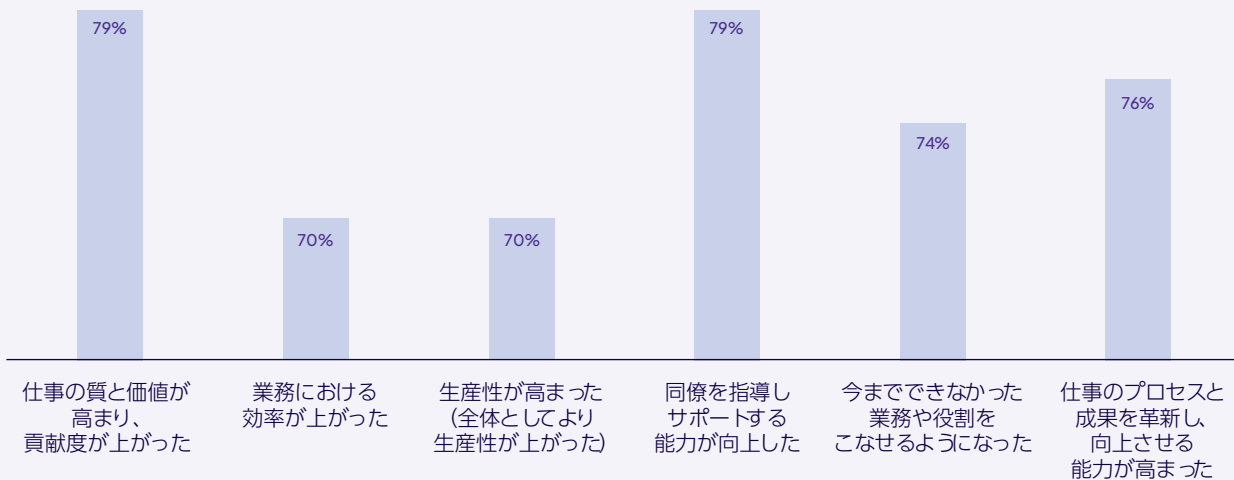
認定資格のROI(投資対効果): 雇用主

IT 認定資格への投資により企業のビジネスに具体的な成果を実現

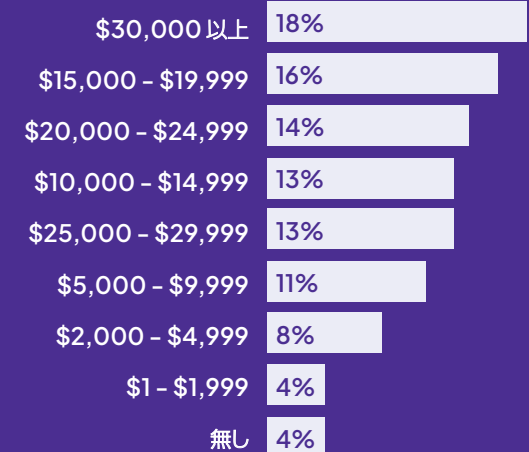
これまでの調査でも明らかのように、IT 認定資格のメリットは認定資格を取得した本人だけでなく、雇用主にもプラスの影響を与えています。認定資格を取得した従業員の70%以上が、業務の質や生産性、同僚への指導力が向上したと回答しています。

Skillsoftの「2023 IT Skills & Salary Report」(2023年度ITスキル&給与レポート)では、スキルの習得・向上や認定資格の取得により組織に大きな利益がもたらされ、認定資格を持つ従業員の価値がさらに強調されています。

認定資格を取得したことで以下のメリットがありましたか? (「はい」と回答した割合)



認定資格を持つ従業員の付加価値(年間)



Skillsoft, IT Skills & Salary Report 2023



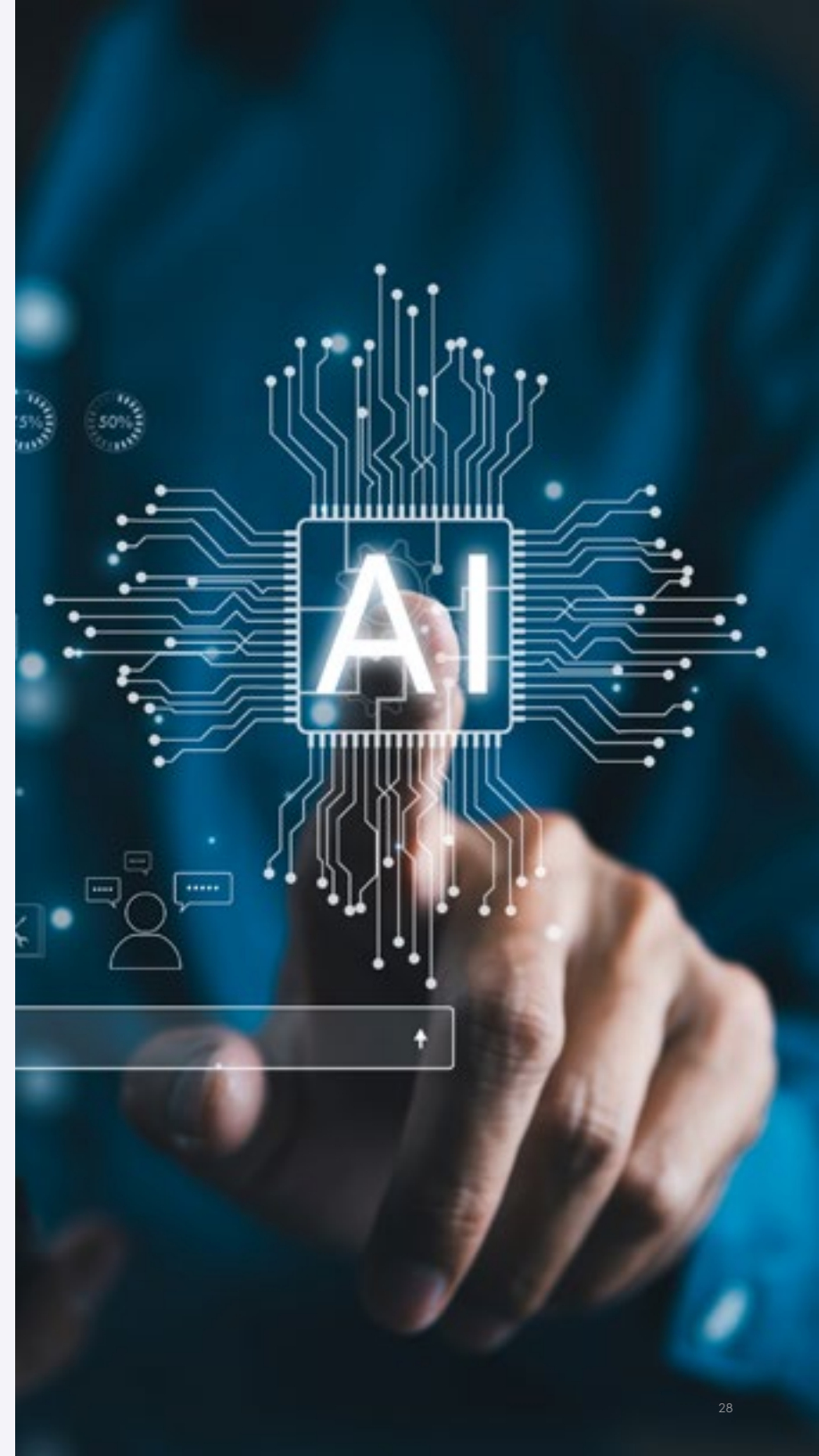
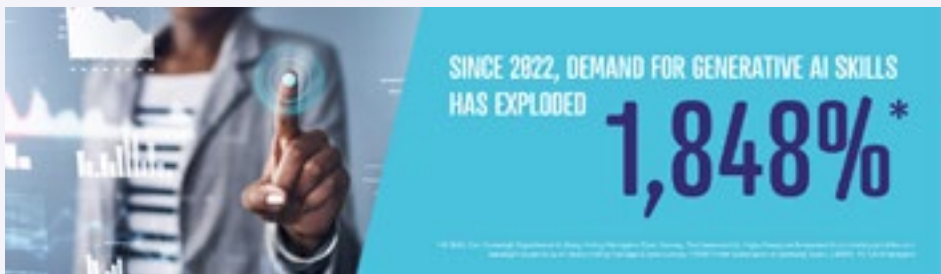
(物事に対する)理解度が深まり、お客様に対してより有益な提案ができるようになりました。



情報セキュリティ・マネジメント認定アソシエイト (日本)

職場のトレンド

生成AIがあらゆる業界で働き方を変革している中、従業員にとってAIリテラシーはもはや選択肢ではなく、不可欠なものとなっています。生成AIツールを使いこなす能力があれば、進化する環境で機敏に対応し、成長することができます。このスキルセットを証明するAI認定資格が市場に増えつつあり、ピアソンの「[Pearson's Generative AI Foundations program](#)」(Critical Career Skillsプログラムの一部)などが登場しています。これは、AIが日常業務においてますます重要な存在になっていることを示しています。

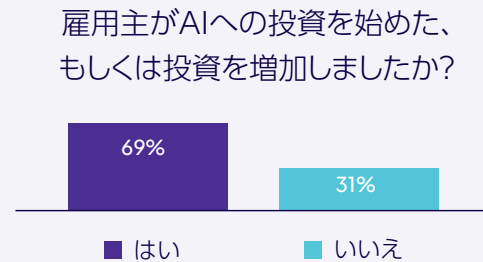


職場のトレンド

人工知能(AI)と機械学習

AI革命の最前線に立つ個人や組織は、これらのテクノロジーによる変革力を認識しています。

- 受験者の69%は、雇用主がAIへの投資を始めるか投資を増加したと回答。インドでは受験者の82%が、雇用主がAIへの投資を増加したと回答。



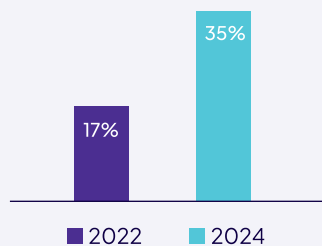
雇用主がAIへの投資を始めた、もしくは投資を増加しましたか？

	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
はい	68%	69%	82%	71%	69%	62%	63%
いいえ	32%	31%	18%	29%	31%	38%	37%

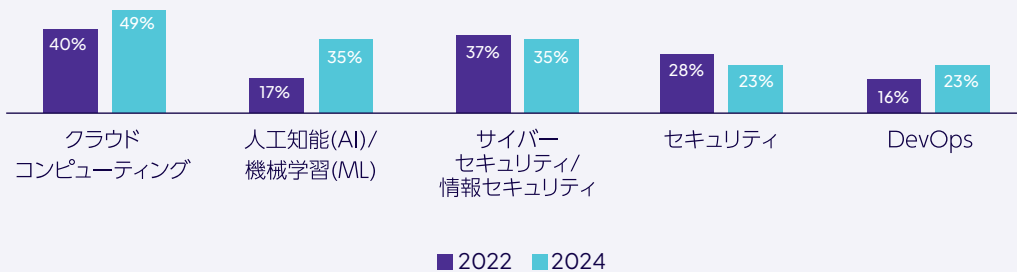
● グローバル平均を大幅に上回る ● グローバル平均を大幅に下回る

職場のトレンド

当然のことながら、AIの認定資格の取得を目指す受験者の数は大幅に増加しています。

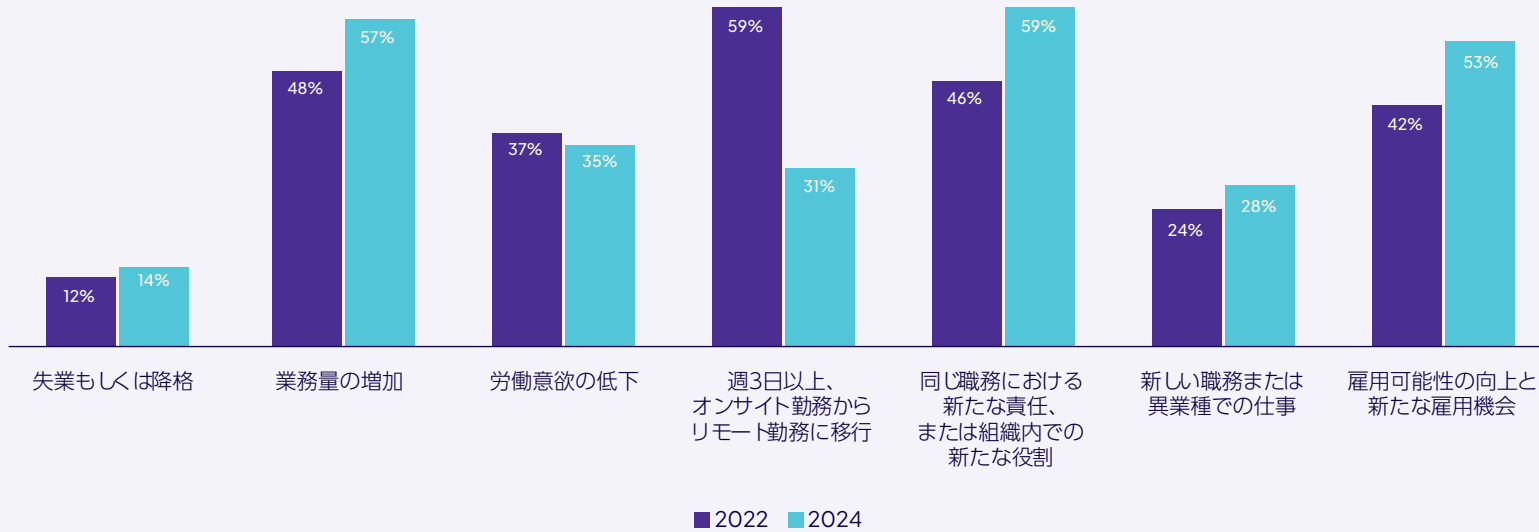


興味のある専門分野トップ5



職場のトレンド

過去1年間に以下のことを経験されましたか? (「はい」と回答した人の割合)



過去1年間に以下のような経験をしましたか? (「はい」と回答した人の割合)

	グローバル平均	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
失業もしくは降格	14%	18%	13%	13%	4%	18%	15%	17%
業務量の増加	57%	62%	52%	49%	54%	64%	60%	56%
同じ職務における新たな責任、または組織内での新たな役割	59%	63%	55%	67%	44%	67%	64%	53%
新しい職務または異業種での仕事	28%	33%	26%	34%	15%	29%	34%	24%
労働意欲の低下	35%	39%	41%	28%	32%	36%	32%	40%
週3日以上、オンサイト勤務からリモート勤務に移行	31%	30%	32%	32%	29%	37%	33%	23%
雇用可能性の向上と新たな雇用機会	53%	56%	51%	57%	31%	62%	66%	49%

● グローバル平均を大幅に上回る

● グローバル平均を大幅に下回る

職場のトレンド

スキルギャップとアウトソーシング

IT人材への需要が高まる中、組織は優秀なプロフェッショナルを引きつけ、確保し、育成するために戦略を適応させています。これにより、企業のIT人材の採用や育成のアプローチに顕著な変化が見られています。

- 受験者の54%が世界中でIT人材の獲得や定着がますます難しくなっていると回答しており、アジア太平洋、英国・ヨーロッパ、中南米では、平均を上回るIT人材不足が明らかに。

IT人材の確保・定着に困難はありますか? (地域別)

	グローバル平均	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
はい	54%	58%	58%	54%	52%	58%	49%	47%
いいえ	46%	42%	42%	46%	48%	42%	51%	53%

● グローバル平均を大幅に上回る ● グローバル平均を大幅に下回る

- 同時期にIT専門分野のアウトソーシングへの依存も増加

IT人材のアウトソーシングは増加しましたか? (地域別)

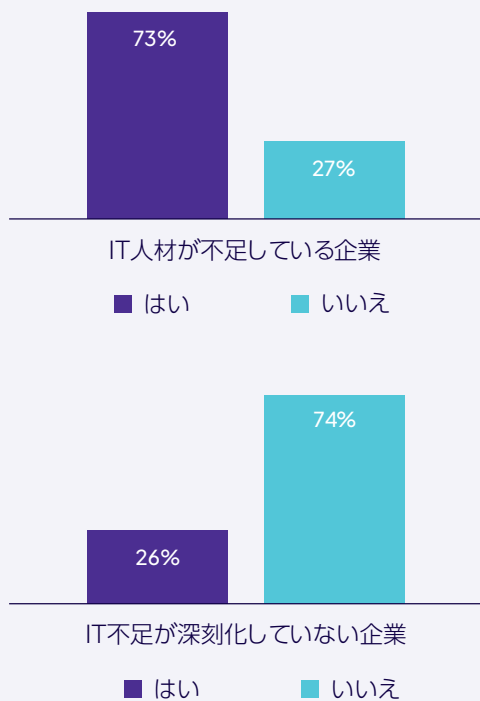
	グローバル平均		アジア太平洋		英国・ヨーロッパ		インド		日本		中南米		中東・アフリカ		北米	
	2022	2024	2022	2024	2022	2024	2022	2024	2022	2024	2022	2024	2022	2024	2022	2024
はい	40%	52%	49%	57%	42%	44%	41%	63%	29%	55%	37%	51%	39%	54%	39%	41%
いいえ	61%	48%	51%	43%	58%	56%	59%	37%	71%	45%	63%	49%	61%	46%	61%	59%

● 2022年を大幅に上回る ● 2022年を大幅に下回る

職場のトレンド

IT人材が不足している企業と、そうでない企業を比較すると、アウトソーシングは主にスキルギャップを埋めるために行われていることが明らかになっています。スキルギャップがある企業の73%がアウトソーシングを利用している一方で、IT専門知識の不足に直面していない企業でアウトソーシングを行っているのはわずか26%でした。

雇用主はIT人材のアウトソーシングを増やしましたか？



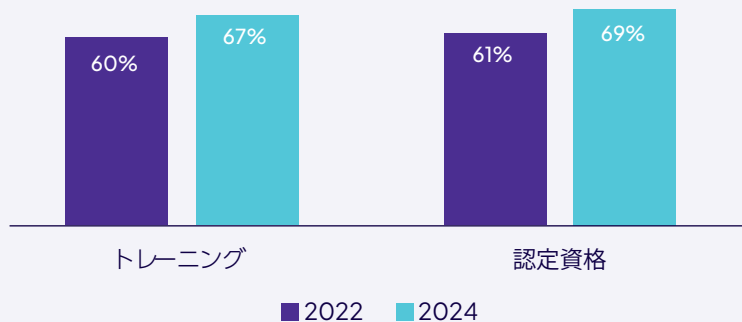
継続的なスキル習得

ITトレーニングと認定資格取得への投資

継続的な学習は、もはや有益だけでなく、不可欠です。個人も組織もこの重要性を認識しており、投資の傾向に表れています。

- ITプロフェッショナルと雇用主は、過去18か月間でITスキル習得や認定資格取得への投資を増加。
- 雇用主によるトレーニング支援が増加していても、自らトレーニングに投資する受験者の数が増加しており、トレーニングと認定資格の両方に対する自己投資を増やした受験者の数は大幅に増加。
- これらの投資は、ピアソンの「[Lost in Transition](#)」(移行期の喪失)レポートが提唱する「生涯学習のための貯蓄口座」や、個人がキャリアを通じて段階的にスキル開発に投資できるようにする革新的な資金調達の仕組みの必要性を裏付けている。

過去1年間にITトレーニングや認定資格への投資を増やしましたか? (「はい」と回答した割合)

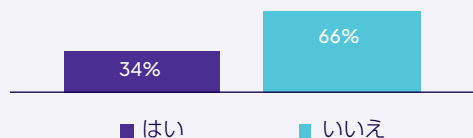


継続的なスキル習得

認定資格:生涯をかけて追求するもの

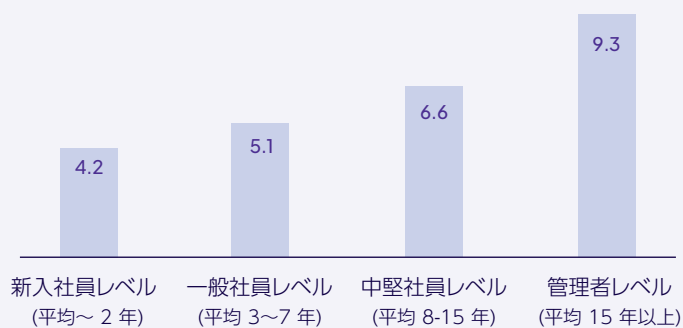
- 2024年に認定資格を取得した受験者の66%は、平均で**6.7個の複数の認定資格**を保有。

今回が初めてのIT認定資格ですか？



- 取得した認定資格の平均数は勤続年数が長くなるほど増加しており、これは受験者が継続的な学習に取り組み、常にスキルを刷新・拡大する必要があることを示唆。

認定資格の平均取得数 (勤続年数別)





専門性の成長だけでなく、IT認定資格を取得したことで、常に新しい学習の機会を探し、日々進化するIT環境の中で最新技術に遅れずについていこうとする意欲が高まりました。



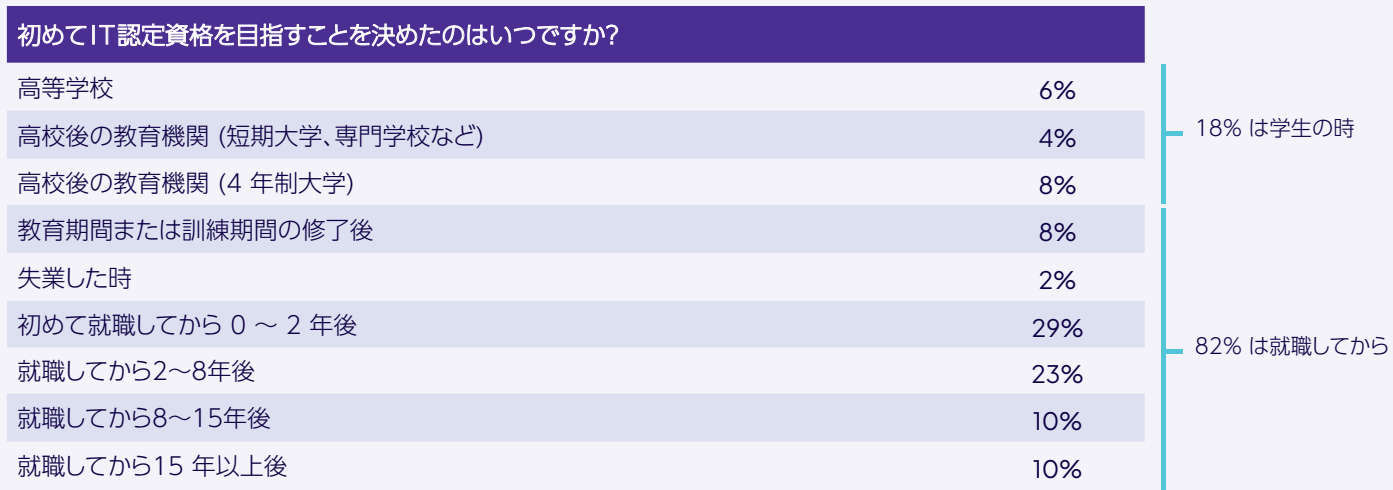
クラウド認定プロフェッショナル (UAE)

継続的なスキル習得

早くから認定資格取得を目指すほど、生涯にわたってより多くの認定資格を取得

今回の調査では、認定資格を目指す人の年齢層が若年化していることが確認されました。受験者の18%は学生時代に、6%は高校時代に初めて認定資格取得を意識しています。

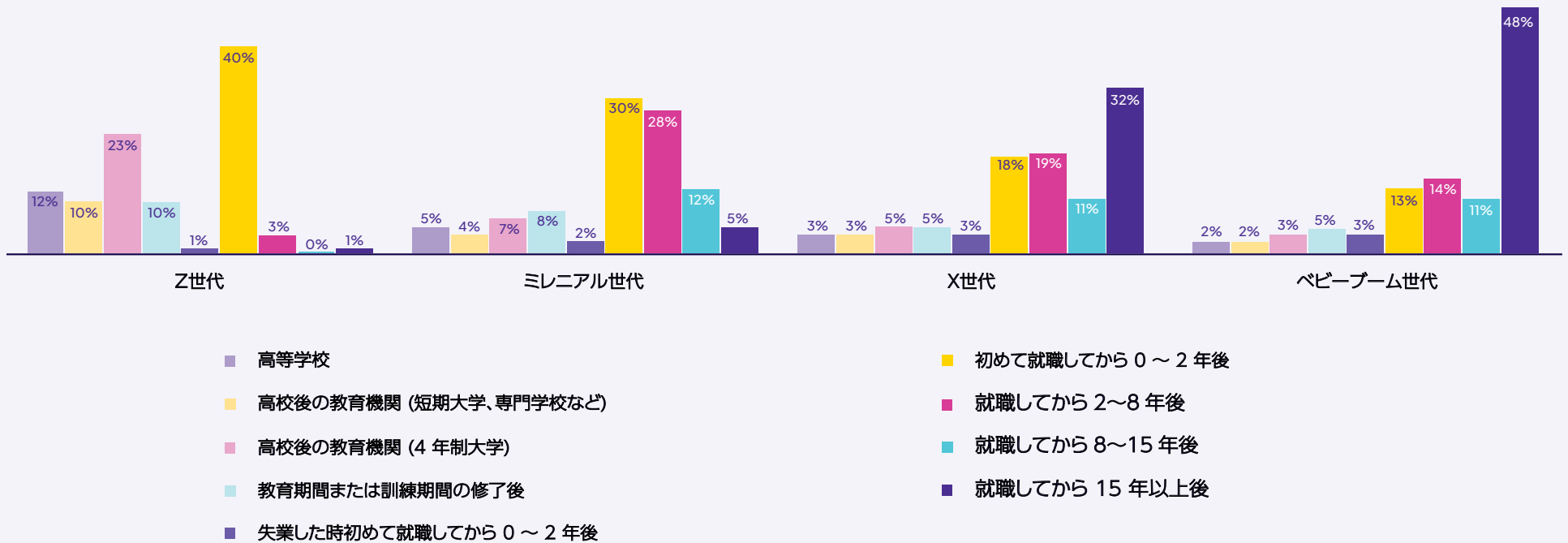
早期の認定資格取得には2つのメリットがあります。生涯学習の意識が身につくこと、そして学業から就職への移行が早まることです。ピアソンの「[Lost in Transition](#)」(移行期の喪失)レポートには、学校教育から就労までの移行期間を24週間から18週間に短縮できれば、米国の年間所得はさらに400億ドル増加する可能性があるとして示しています。



継続的なスキル習得

Z世代の回答者の12%は、高校時代に認定資格取得の道を歩み始めました。より若い年齢で認定資格を取得し始めるにつれて、受験者が生涯に取得する資格の数は増加します。

初めてIT認定資格を目指すことを決めたのはいつですか？



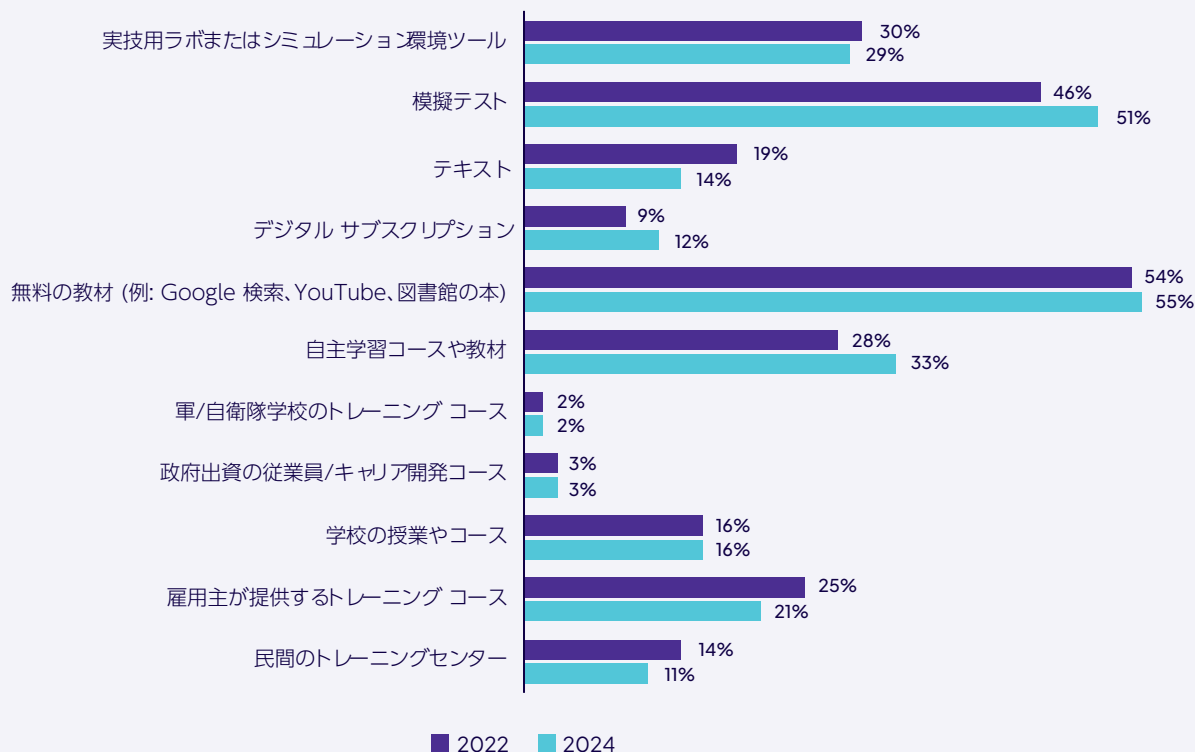
試験に向けたトレーニングと準備

試験の準備方法

最新のデータによると、ITプロフェッショナルの試験準備のアプローチに変化が見られ、従来の方法よりも自主学習が重要視されるようになってきています。この傾向は、オンラインリソースの質の向上と、プロフェッショナルが自分に合った学習方法を自信を持って選択できるようになってきていることを表しています。

- 試験の対策として、雇用主が提供するトレーニングや民間のトレーニング機関のコースへの参加は減少しているが、自主学習者の割合は2024年に28%から33%に増加。

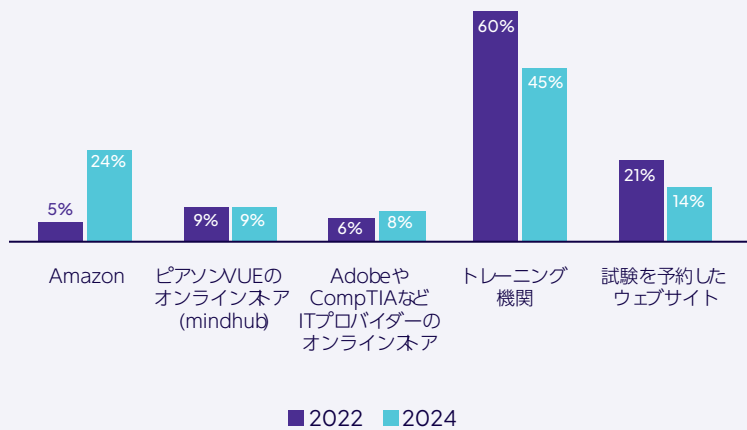
認定資格試験に向けてどのような準備をしましたか？



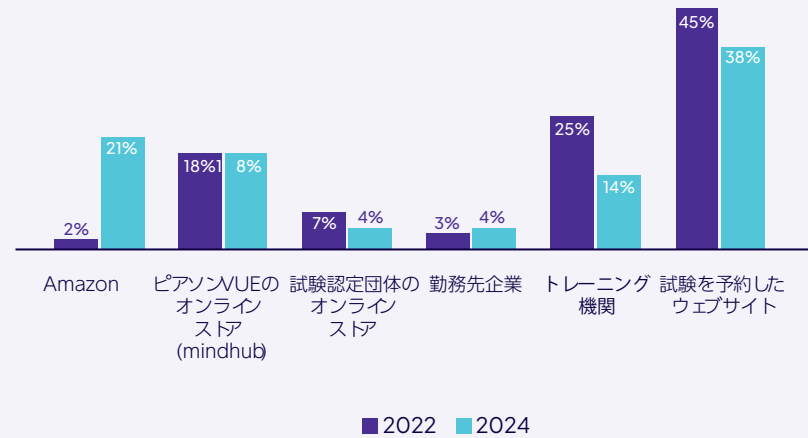
試験に向けたトレーニングと準備

- トレーニング事業者や試験認定団体のウェブサイトからトレーニングや受験バウチャーを購入する受験者の割合は大幅に減少した一方で、Amazonのウェブサイトからの購入は増加。

トレーニング購入先



認定試験の受験バウチャー購入先



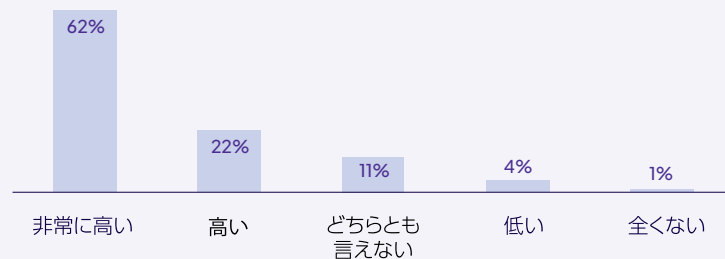
将来の展望

今後のプラン

IT 認定資格の未来は明るく、プロフェッショナルたちは継続的な学習に取り組んでいます。

- 受験者の84%が、今後12か月以内にさらなる認定資格を取得する可能性が「高い」、または「非常に高い」と回答。
- 特に関心の高い専門分野は、クラウドコンピューティング(49%)、AI/機械学習(35%)、サイバーセキュリティ(35%)などの新しいテクノロジーだった。
- 推論力や意思決定能力が強化されたAIシステムの登場により、プロンプトエンジニア、データキュレーター、あるいは責任あるAIスペシャリストといった新たなスキル、そしてクリティカル・シンキング、判断力、共感力、適応力、問題解決力といった、人ならではのスキルの需要にも拍車がかかるだろう。しかし、あらゆる業界や職種に何らかの影響を及ぼす可能性がある。*

今後1年以内に別の資格を取得する可能性は？



関心のある専門分野の比較

関心のある専門分野	2022	2024	変化
クラウドコンピューティング (IaaS, PaaS, SaaS)	40%	49%	9%
人工知能(AI)/機械学習(ML)	17%	35%	18%
サイバーセキュリティ/情報セキュリティ	37%	35%	-3%
セキュリティ	28%	23%	-5%
DevOps	16%	23%	7%
アナリティクス、ビッグデータおよびデータウェアハウス	15%	18%	3%
アプリケーション(ソフトウェア)開発	12%	17%	4%
仮想化	23%	15%	-8%
サーバ	17%	14%	-4%
ネットワーク&ワイヤレス	22%	14%	-9%
データベース管理・開発	8%	12%	3%
ウェブ開発	9%	10%	1%
プロジェクトマネジメント、アジャイルおよび/またはスクラム	10%	10%	0%
ストレージ	13%	10%	-3%
IoT/クラウド コンバージェンス	11%	9%	-2%
オペレーティングシステム	10%	9%	-2%
ビジネススキル	11%	9%	-2%

関心のある専門分野	2022	2024	変化
リーダーシップ、マネジメント	8%	7%	-1%
エンタープライズ・アーキテクチャ	7%	7%	-1%
ビジネス・アプリケーションおよびデスクトップ生産性ソフトウェア	7%	5%	-2%
CRM および ERP	8%	5%	-3%
オープンソース	5%	4%	0%
品質保証(クオリティ・アシュアランス)	3%	4%	1%
ヘルプデスク	4%	3%	-1%
3D モデリング/CAD	2%	3%	0%
eコマース/eビジネス	4%	3%	-2%
ゲーム開発	3%	3%	0%
モバイル	4%	3%	-1%
コラボレーション、ビデオ/ウェブ カンファレンシング	3%	2%	-2%
ミドルウェア	2%	2%	0%
XR (VR, AR, MR)	2%	2%	-1%
ボイスエンジニアリング	3%	1%	-1%
マルチメディア・プロダクション、グラフィックデザイン	2%	1%	-1%

結論

2023年度の「IT認定資格に関する調査レポート」では、世界的な人材不足の中で、IT認定資格が技術スキルの継続的な需要に対応する助けとなっており、雇用主がこれまで以上にその取得を支援する意欲を持っていると報告していました。

約2年が経過した現在もスキル不足は続いていますが、受験者が自ら資格取得費用を負担する傾向が強まっています。

人材不足は世界中の組織にとって依然として課題となっており、特にAIや機械学習といった最先端分野でその傾向が顕著です。

雇用主は、急速に進化するテクノロジーの環境の中で、認定された専門知識の価値を認識し、重要なスキルギャップを埋めるために認定資格を持つプロフェッショナルを求める傾向が強まっています。



結論

今回の調査で証明されたのは...

AIの台頭はスキルのあり方を大きく変えており、AIや機械学習の認定資格取得を目指すプロフェッショナルが大幅に増加しています。これは、新しいテクノロジーがもたらす劇的な変化を多くの人が認識していることを示唆しています。

継続的な学習はキャリア開発の基盤となっており、多くの技術系プロフェッショナルは自主的に自らの教育に投資しています。

認定資格取得による昇給や昇進といった具体的なメリットが、プロフェッショナルのスキルアップの取り組みを引き続き後押ししています。

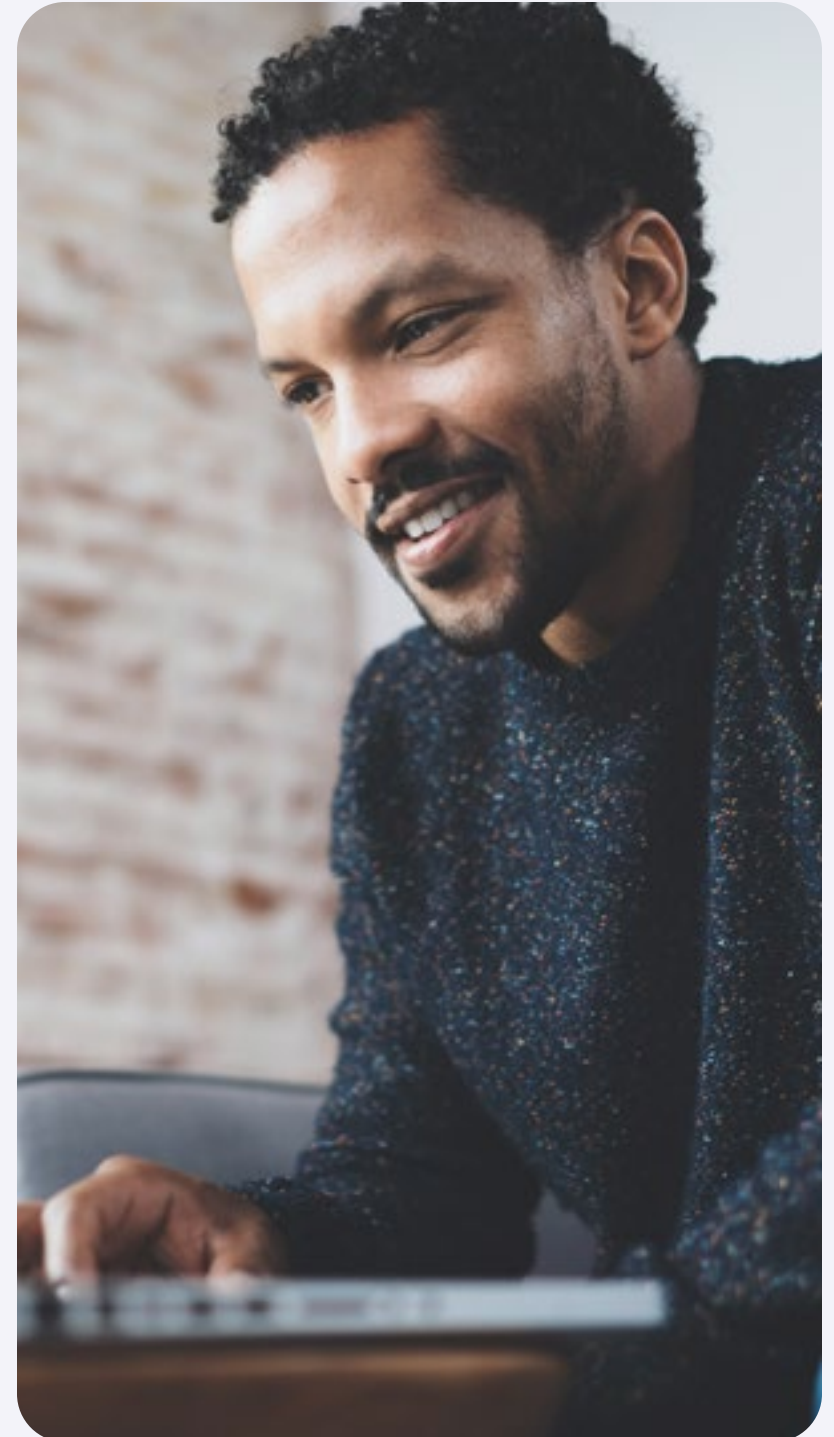


結論

生涯学習を通してAIの未来を受け入れる

AIの時代は、私たちの新しい現実です。AIのスキル、知識、そしてこの変革をもたらすテクノロジーを活用する能力を身につければ、私たちがまだ想像もしなかったようなチャンスが生まれるでしょう。AIの時代への移行が深まるにつれ、IT認定資格は、証明された専門知識、および生涯学習へのコミットメントとして、業界を超えてグローバルな規模でその価値を示し続けるでしょう。

未来は、継続的なスキル開発を受け入れ、テクノロジーの変化に迅速に適応し、積極的に将来を見据えたキャリアを築く人たちのものです。急速なイノベーションが進むこの新しい時代において、認定資格は刺激的でありながらも、困難な前途を切り開くための非常に頼もしい味方となります。

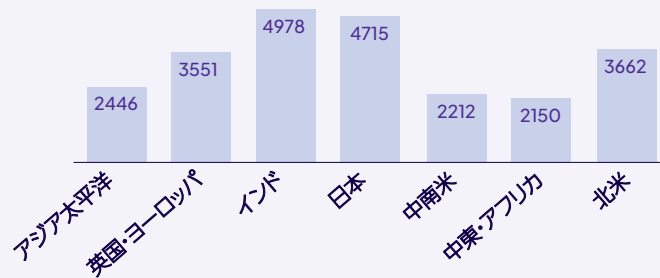


付録

調査方法

2023年3月15日から2024年3月15日の間にピアソンVUEで1回以上の試験を受けた受験者の中から、無作為に抽出した400,000人に、調査のためのオンラインアンケートを送信しました。参加を促すため、4つの地域でアンケートに回答した先着75名の受験者に、15米ドル相当のギフトカードを贈呈しました。本レポートには、150カ国、23,714人の受験者からの回答が含まれています。

調査対象は、アジア太平洋、英国・ヨーロッパ、ラテンアメリカ、中東・アフリカ、および北米の5つの地域の受験者です。データをより具体的に分析するため、これらの地域をさらに細分化し、アジア太平洋地域からインドと日本を分離しました。アンケート調査は、英語、フランス語、スペイン語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語で行われました。端数処理の関係で、一部の結果は合計が100%を若干上回る場合があります。



付録

属性

回答者の年齢

	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
18-24歳	13%	12%	7%	33%	9%	9%	16%	8%
25-34歳	40%	42%	35%	45%	40%	36%	49%	31%
35-44歳	29%	31%	32%	19%	23%	35%	26%	34%
45-54歳	15%	13%	21%	4%	21%	16%	7%	18%
55-64歳	4%	2%	5%	0%	7%	3%	1%	8%

回答者の性別

	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
男性	79%	80%	76%	79%	84%	81%	74%	81%
女性	18%	16%	21%	18%	15%	18%	21%	15%
ノンバイナリー/ ジェンダークィア/ ジェンダーフルイド	0.3%	0.8%	0.1%	0.2%	0.3%	0.1%	0.5%	0.4%
トランスジェンダー	0.1%	0.3%	0.0%	0.1%	0.2%	0.1%	0.2%	0.2%
回答しない	2.7%	3.4%	2.6%	2.9%	0.8%	0.7%	4.5%	2.9%
自分で記述する	0.3%	0.1%	0.3%	0.0%	0.1%	0.2%	0.6%	0.5%

付録

学歴

	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
中学校	1%	1%	1%	1%	0%	1%	1%	1%
高等学校	9%	6%	15%	4%	8%	8%	14%	10%
短期大学または専門学校	10%	8%	12%	6%	12%	11%	7%	16%
4年制大学等の高等教育	34%	48%	22%	16%	59%	14%	42%	34%
大学院または専門職の学位	46%	36%	51%	73%	20%	66%	36%	40%

キャリアレベル

	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
無職または学生	5%	5%	3%	9%	2%	2%	10%	7%
新入社員レベル (平均 2 年以下)	15%	16%	11%	24%	12%	11%	21%	12%
一般社員レベル (平均 2-8 年)	30%	30%	26%	35%	33%	30%	33%	26%
中堅社員レベル (平均 8-15 年)	24%	25%	23%	21%	28%	25%	21%	25%
管理者レベル (平均 15 年以上)	24%	23%	36%	12%	23%	30%	13%	29%
該当しない	2%	1%	2%	1%	2%	2%	2%	2%

付録

勤務先組織の従業員数

	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
10人未満	9%	9%	8%	11%	3%	9%	16%	11%
10 - 49人	9%	11%	10%	4%	5%	10%	18%	6%
50 - 99人	8%	8%	7%	3%	6%	13%	10%	6%
100 - 199人	8%	10%	9%	4%	8%	10%	10%	6%
200 - 499人	9%	11%	9%	5%	11%	12%	10%	7%
500 - 999人	8%	11%	8%	4%	10%	8%	8%	7%
1,000 - 1,999人	9%	9%	9%	5%	14%	9%	8%	9%
2,000 - 4,999人	8%	7%	9%	5%	12%	8%	6%	8%
5,000 - 9,999人	6%	6%	6%	5%	7%	6%	4%	7%
10,000人以上	26%	19%	27%	55%	24%	16%	11%	33%

勤務先組織は、従業員のスキルトレーニングへの投資を増やしましたか？

	グローバル		アジア太平洋		英国・ヨーロッパ		インド		日本		中南米		中東・アフリカ		北米	
	2022	2024	2022	2024	2022	2024	2022	2024	2022	2024	2022	2024	2022	2024	2022	2024
はい	59%	71%	62%	72%	51%	64%	78%	84%	47%	65%	65%	75%	64%	74%	45%	59%
いいえ	41%	29%	38%	28%	49%	36%	22%	16%	53%	35%	35%	25%	36%	26%	55%	41%

付録

参加した試験プログラム

本アンケート調査には以下の試験プログラムの受験者が参加しました。

- Amazon Web Services (AWS)
- Arcitura
- Autodesk
- Avaya Inc.
- Baidu
- Broadcom Software
- CDA (Certified Data Analyst)
- CertNexus
- Check Point
- Cisco
- CompTIA
- Dell EMC
- DPtech
- Ericsson
- ESRI (Environmental Systems Research Institute)
- ETEC (組込み技術者試験制度)
- F5 Networks
- Fortinet
- GIAC (Global Information Assurance Certification)
- HPE (Hewlett Packard Enterprise)
- Intel
- ISC2
- JDLA
- JPI -日立ITプラットフォーム技術者資格認定制度
- JSTQB
- Juniper Networks
- kintone認定資格制度
- Lenovo
- LPI (Linux Professional Institute)
- LPI-Japan
- Meta
- Microsoft
- NetApp
- Object Mgt. Group (OMG)
- Oracle
- Palo Alto Networks
- QAI (Quality Assurance International)
- Ruijie Networks
- SAS
- Tableau
- Tanium
- UiPath
- UMTF
- Unity Certification
- VMware
- ZTE

Pearsonについて

ピアソンは「To help people realize the life they imagine through learning (学びを通じて人々が思い描く人生の実現を支援する)」ことをパーパスに掲げる世界最大規模の教育サービス会社です。約18,000人の従業員が人々の生活にインパクトをもたらす豊かな学習体験を生み出し、約200カ国でお客様の生涯にわたる学びを支援しています。ピアソンは、デジタルコンテンツ、アセスメント、資格、データを用いてお客様にサービスを提供し、自らも学び続けています。

詳細は [Pearsonplc.com](https://www.pearsonplc.com) をご覧ください。

Pearson VUEについて

ピアソンVUEは、「学びや広がりを通じて常に自分自身を向上させる可能性」という成長する力が私たちすべてにあると信じています。そして、人が成長するとき、自分自身を豊かにするだけでなく、職業、コミュニティそして周りの人々の生活にも直接的でいつまでも残る影響を与えます。当社はグローバルなテストセンターネットワークを活用し、あらゆる業界の認定団体に対して、世界中でコミュニティを守り発展させるプロフェッショナルに認証や免許を与えるハイスタークスの試験を提供しています。

詳細は [PearsonVUE.co.jp](https://www.pearsonvue.co.jp) をご覧ください。

